

氏名： 野々口 ちとせ (NONOGUCHI Chitose)
所属： 文教育学部
学位： 修士 (人文科学)
職名： 講師
専門分野： 日本語教育学
URL： <http://jsl2.li.ocha.ac.jp/index.html>
E-mail： nonoguchi.chitose@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

多言語多文化共生社会／対話／グローバル・リテラシー／協働学習／内省
Multilingual and multicultural society / Dialogue / Global Literacy / Cooperative learning / Reflection

◆主要業績

総数（3）件

- ・岡崎眸監修 野々口ちとせ・岩田夏穂・張瑜珊・半原良子編『共生日本語教育学』雄松堂出版
- ・張瑜珊・穆紅・小林（寺沢）久美子・野々口ちとせ「多言語多文化共生日本語教育実習での経験は個にどのように統合されるか－PAC分析による中国語母語話者実習生の事例研究－」『共生日本語教育の教員養成に関する研究』31-68.
- ・野々口ちとせ「学び手の主体性を高める協働学習の意識化－大学生を対象としたアカデミック・プレゼンテーションの場合－」『北京日本学研究中心 2007 年国際シンポジウム「二十一世紀における北東アジアの日本研究」』92-97.

◆研究内容 / Research Pursuits

- 1) 多言語多文化共生を目指す日本語教育実習を対象とした研究
本学大学院日本語教育コースで実施している教育実習で、個人別態度構造分析の手法を用いて、実習生の意識変容を個別に分析・記述し、考察を行った。
- 2) 留学生対象の日本語クラスにおける協働学習の意識化
学部留学生の日本語クラスでペア・またはグループによる学生同士の話し合い学習を行い、その活動を学生自身に振り返らせることによって、協働学習の意識化を図り、学習活動に対する認識の変化を探った。

◆教育内容 / Educational Pursuits

日本語教員養成における入門期の教育と、留学生に対する日本語教育を担当している。

＜日本語教員養成における入門期の教育＞

1) 日本語教育学：

教材や学習活動の分析を通して、外国語として日本語を学び、使うとはどういうことなのかを考える。
また、日本語学習者が直面する心理的・社会的な問題や、日本語教師の役割についても検討する。

2) 日本語学：

身近な日本語にひそむ力関係や社会・文化との結びつきに注目し、ことばを多角的に分析する力を養う。
日本語学の中で社会言語学的な分野を中心に扱い、分析と考察を行う。

3) 「持続可能な生き方」：グローバル化が進む現代社会において、自分の「持続可能な生き方」を考える。

＜学部留学生に対する日本語教育＞

留学生が大学での研究生生活を円滑に進めるために必要な日本語教育を行っている。特に、ペアワークやグループワーク、ディスカッションなど仲間とともに行う活動を通して、レジュメを作って発表したり、レポートを作成する力を伸ばすことを目指している。

◆研究計画

持続可能性教育としての日本語教育のあり方を探っていききたい。

◆メッセージ

日本語教育基礎コースでは、日本語教育に関する基礎知識を学びますが、日本語教員を志望する人だけを対象としているわけではありません。グローバル化によって価値観の転換が進む現代社会において、言語や文化が異なる人々と共に生きる時代に必要な「リテラシー」について考えるコースでもあります。自分の持つ思考の枠組みや言語や文化を振り返り、他の異なる枠組みとぶつかったときに、新たな枠組みをどう創り上げるかを、一緒に考え話し合う授業をつくっていききたいと思っています。